

## 第3章

# 中川村保育園、小・中学校の あり方

# 1. 中川村小・中学校の教育の強みと課題

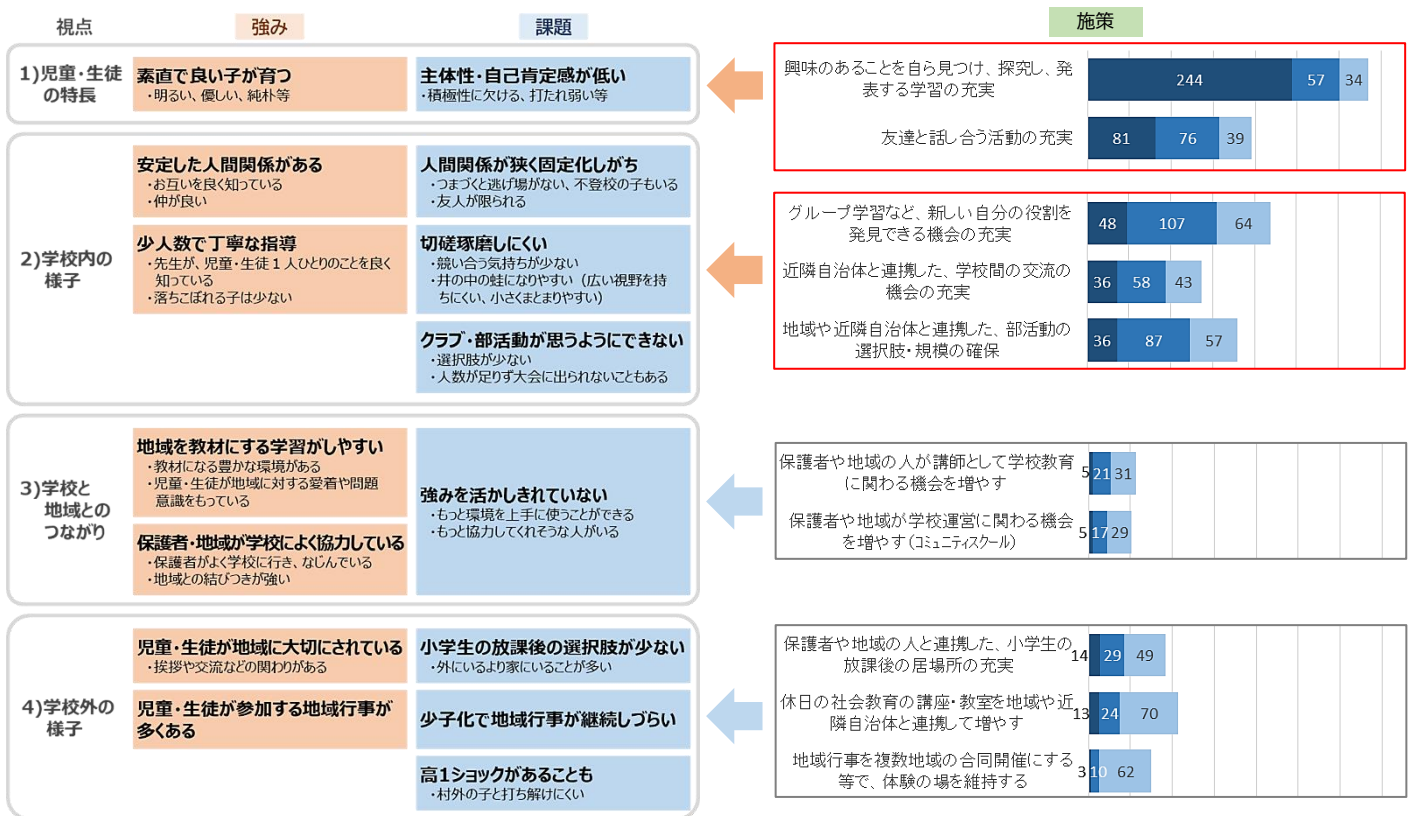
関係者ヒアリングや小・中学校のあり方に関するアンケート調査等から、中川村小・中学校の教育の強みと課題が見えてきました。特徴的な内容として以下があげられます。

- 強み** 素直で良い子が育つ、安定した人間関係がある、地域を教材に学習しやすい 等
- 課題** 主体性・自己肯定感が低い、切磋琢磨しにくい、強みが活かしきれていない 等

# 2. 中川村小・中学校の教育の目指す姿

強みを伸ばし課題を克服していく先に、これからの中川村小・中学校の教育が目指す姿があると考えられます。そのための教育施策として、アンケート調査からは、「**主体的かつ探究的な学びと、自ら発信する場の充実**」が最も重要視されていることがわかりました。その他に、「対話的な学びの充実」、「人間関係の広がり確保」、「部活動の選択肢の確保」等の施策の重要度が高くなっています。

図表 1 強み・課題と重要視する教育施策との対応関係



これらを踏まえると、中川村小・中学校の教育が目指す姿は、以下のように考えられます。

〈中川村小・中学校の教育が目指す姿〉

**自ら考え、判断し、行動して、人生を開拓していく力を育む**

### 3. 中川村小・中学校の教育が目指す姿を実現するために

検討委員会では、中川村小・中学校の教育が目指す姿を実現するための方向性について協議してきました。出された方向性を整理すると、以下のようにまとめられます。

| 項目                   | 方向性   |
|----------------------|---|
| 方針<br>理念             | <ul style="list-style-type: none"> <li>●中川村ならではの魅力的な教育理念・方針を設定する</li> <li>・中川村の義務教育に関わるすべての人が共通のイメージを持てるようにする</li> <li>・強みである地域とのつながりを活かす、課題である主体性・自己肯定感を改善する</li> </ul>  |
| 教育<br>カリ<br>キュ<br>ラム | <ul style="list-style-type: none"> <li>●主体的かつ探究的な学びを強化する</li> <li>・一人ひとりの子どもが興味のあることや多様な人間関係に出会える場を充実する</li> <li>・一人ひとりの個性に寄り添いながら、興味のあることを深められる学びを充実する</li> <li>●学んだことを発信する場を充実する</li> <li>●対話的な学びを充実する</li> <li>・多様な人間関係に出会える学習グループをつくる（同学年・異学年）</li> <li>・近隣自治体の学校との交流を増やす</li> <li>・都市部等多様な地域（姉妹都市含む）との交流の機会をつくる</li> <li>・外国との交流の機会をつくる</li> </ul> <p>※交流には、ICTを積極的に活用する。可能であれば、対面での交流を積極的に行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域資源（ヒト・コト・モノ）を活かした学びの充実</li> <li>・「中川学」を推進する（自然を活かした体験学習、地域と連携したキャリア教育）</li> <li>・地域が学校の運営に参画するコミュニティスクールを推進する</li> </ul> |
| 規模<br>学校             | <ul style="list-style-type: none"> <li>●クラス替えのできる規模を維持する努力をする</li> <li>・移住促進と積極的に連携する（学校の魅力発信等）</li> <li>・村独自のクラス定員を検討する</li> </ul>   |
| 整備<br>体制             | <ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員体制の充実</li> <li>・小学校教科担任制の専科教職員（理科・英語・算数等）を確保する</li> <li>・地域連携を推進する教職員を確保する</li> </ul>  |
| 設備<br>施設             | <ul style="list-style-type: none"> <li>●新しい校舎を整備する</li> <li>・学校を統合する分、設備や備品も充実する</li> </ul>   |
| 通学                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●通学の足の確保</li> <li>・スクールバスを運行する</li> </ul>  |
| 社会<br>教育             | <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の活動の見直しと継続</li> <li>・「子ども会」を持続可能にする（広域化等）</li> <li>・地域の行事、ボランティア等へ積極的に参加する</li> </ul>   |
|                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校以外の様々な活動に触れる機会をつくる</li> <li>・村内の活動を充実する</li> <li>・近隣自治体と連携してスポーツ・文化活動等を充実する</li> </ul>  |
| その他                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「1つの中川」づくり</li> <li>・東小・西小の交流、小・中学校の合同行事を実施する</li> <li>●中川村に合った施策を積極的に取り入れる</li> <li>・先進事例の研究</li> </ul>  |

このように、方向性は多岐にわたっています。また、アンケート調査の自由記述を合わせて整理してみると、資料編「9. 新しい中川村小・中学校の教育のあり方についての検討の視点と主な意見等」（P46）のようにまとめることができます。これらの詳細検討は今後行われることとなりますが、例えば関係者等と対話的に検討する場を設けたり、項目ごとに関係者等が役割を担って専門的に検討したりする等、検討方法を工夫して進めることも効果的と考えられます。

## 4. 中川村小・中学校のあり方の基本的な考え方

検討委員会では、中川村小・中学校が魅力ある学びの場となるための望ましい教育環境のあり方について2年にわたり検討してきました。あり方の基本的な考え方としては、以下のアプローチが、教育が目指す姿や方向性を実現していくために効果的であると考えます。このアプローチはアンケート調査でも支持されています。

### ① 9年間を一体的に捉え、効果的に学ぶための独自のカリキュラムをつくる

⇒主体的かつ探究的な学び、発信する場、対話的な学び、地域資源を活かした学び等を、義務教育期間を一体的に捉えて、一貫した理念・方針のもとで進められるようにします。また、学校を1校にすることで、教職員が理念・方針を共有するとともに専門性を補完しやすくします。

### ② 学年規模拡大・異学年交流により、多様な学習グループで学べる教育環境をつくる

⇒同学年・異学年の多様な人間関係による学習グループをつくりやすくします。また、学校を1つにすることで、村外の自治体・学校等との交流や連携を行う場合の調整が、迅速に行えるようにします。

### ③ オール中川で地域が学校と連携して、子ども達の成長を支え育てる体制をつくる

⇒人口減少が進むことが予想されますが、ヒト・コト・モノを1校に集中させることで、これまで以上に教育環境を充実することを目指します。また、中川村が1つになり、オール中川で地域が学校と連携して、子ども達の成長を支え育てる体制をつくりやすくします。

検討委員会は、①～③のアプローチを強力に推進するために、**2つの小学校と1つの中学校を1つに統合し、小中一貫教育を実施する**教育環境を整備することが望ましいと考えます。

一方で、アンケート調査では「統合」以外の方向性を支持した住民も一定数いたことから、「統合」以外の方向性を支持する村民の意見・懸念点等にも配慮しながら、より良い教育環境を整備することに努めることも重要です。

## 5. その他

本答申は、小・中学校のあり方に関する内容となっており、保育園については含まれていません。しかし、中川村小・中学校の教育が目指す姿の実現をより強力に推進していくためには、保・小連携や幼児期の教育についても一体的に取り組むことが効果的であると考えられます。継続した検討が望まれます。